

設立趣意書

北河内地域には、多様な技術と経験を持つものづくり企業が集積しています。一方、地域企業の魅力や仕事子どもたちや市民に十分に知られているとは限らず、人材の確保・育成、技術の継承、新しい事業への挑戦など、一企業だけでは取り組みにくい課題もあります。

こうした課題に向き合うためには、企業、教育機関、行政をはじめとする地域の関係者が、組織や分野の枠を越えて出会い、互いの強みを生かしながら実践につなげる環境が必要です。こうした連携の積み重ねのなかで、2022年の枚方産学公連携フォーラムを一つの契機として、ものづくりを地域に開く機運が高まりました。翌2023年、ひらかた地域産業クラスター研究会と枚方市は、地域一体型オープンファクトリー「不器用FACTORY」を開始しました。

不器用FACTORYでは、地域の商業施設「くずはモール」の協力を得て、ものづくり企業が工場から街へと出向き、子どもや家族連れをはじめとする市民が、身近な場所で企業の技術や仕事に触れる機会をつくってきました。製造技術を題材としたワークショップ、工場見学、地域クリエイターと連携した企業カードの制作などを通じ、企業と市民の新しい接点を育んでいます。さらに、学校との連携や、2025年の大阪・関西万博「大阪ウィーク(やりなはれゾーン)」での地域発信など、活動の場は広がっています。

こうした取り組みを通じて蓄積されてきたのは、開催実績だけではありません。参加企業と市民、教育機関、行政、商業施設、金融機関、クリエイターなどの間に生まれた、顔の見える関係や実践の経験です。一方で、活動の広がりに応じて、契約・資金・権利の管理、意思決定、運営責任を明確にし、個々の担当者や関係組織の努力だけに依存しない継続的な運営体制を整える必要があります。また、こうした関係を組織や分野の枠を越えた実践へ進めるため、必要な人や組織をつなぐ役割が求められています。

そこで私たちは、これまでの取り組みで生まれた関係と成果を基盤として、一般社団法人BUKIYOを設立します。「ものづくりをひらく；地域の可能性がひらく」を掲げ、企業、教育機関、行政、金融機関その他の多様な主体が連携し、ものづくりを起点とした人材育成、企業間連携、産学連携及び地域活性化を推進することで、企業と地域の持続的な発展に寄与することを目的とします。

具体的には、オープンファクトリー等を通じた地域企業の魅力発信を継続しながら、学校・大学と連携した学びの機会、企業同士の交流や協働の取り組みを育てます。さらに、スタートアップや異分野の企業等と連携した、企業課題の解決に向けた実証、新たなコンテンツの開発、地域で人が継続的に関わる場づくりなどについて、実現可能性を検討しながら段階的に取り組みます。

私たちが大切にするのは、「ヒトの成長が、企業を成長させ、地域を成長させる」という考え方です。人が会社や所属の枠を越えて出会い、学びや気づきを企業へ持ち帰り、そこから新しい挑戦が生まれる循環を目指します。

本法人の設立趣旨にご理解を賜り、地域のものづくりとその先にある多様な可能性とともに育むため、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

2026年10月1日

一般社団法人BUKIYO

設立時社員一同

代表理事就任予定者

松本 秀作(ダイコロ株式会社 代表取締役社長)

理事就任予定者

芦田 知之(アクテック株式会社 代表取締役社長)

猪奥 元基(株式会社ノボル電機 代表取締役社長)

竹村 香織(株式会社テイク・システムズ 代表取締役)

織田 章宏(朝日熱処理工業株式会社 代表取締役社長)

佐原 和行(バイカイデザイン株式会社 代表取締役)

交久瀬 清香(合同会社PicnicWork 代表社員)

監事就任予定者

原田 卓哉(香椎化学工業株式会社 取締役副社長)